

911.3
八
坤

能
能
風
程
帖

坤

俳諧風雅帖

陸奥國八戸

三峰館寛北誌
壽川亭常丸著

心少々

何々

柳

長

うめ

佛子四山子



東武青山雲州母里彦

嘉永四年亥夏



俳諧風雅帖

陸奥國戸

三峰館寛永誌
壽川亭常丸著

人少々

何々

柳

長

うめ

佛子四山子



東武青山雲州母里彦

正月中

梅丘女子

江都星憲樓

又稱上

不辛



通稱閑林治庸聚号恭儉舍
淨法寺住盛藩



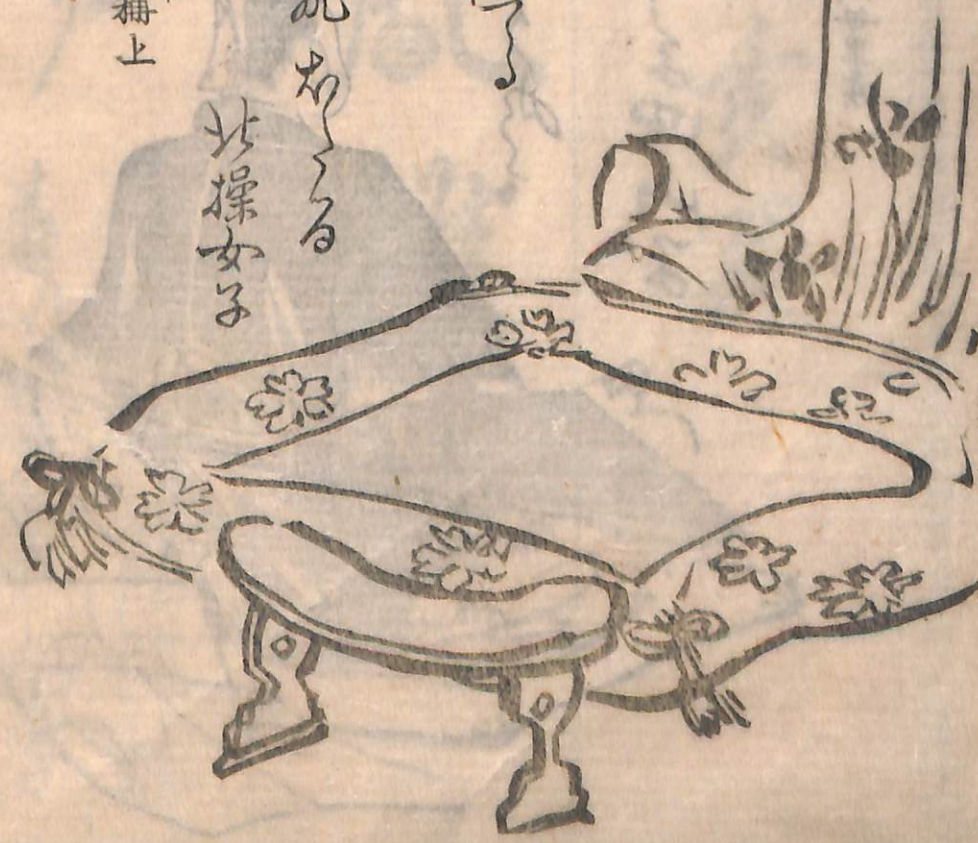
江都星憲樓

又稱上

梅丘女子

北操女子

江都星憲樓又
梅丘女子
稱上



通稱都馬十兵衛貞喜亭

清芳亭梅古堂鬼柳住

盛藩

近道を

新を

稽古を

杜を

北を



下二

いさよを

鬼を

指

寺を

寺

席堂

空音

盛岡鬼柳住正覺寺住



通稱岩部金五郎安繼号燕来舎

福岡住盛藩

此修

此修

此修

何佛

月桂

此修

下二



白く白く

月昌

此修

此修

此修

小鳥



通稱岩部惣八郎安成

菊花園福岡住盛藩

通稱阿部三助鬼柳宿
東漢舎

水音

素

字

義

南



綱

名

海

彦

松

素

通稱山部太郎京映

号松眠舎福岡住盛著



通稱上総屋九十郎

号月海堂福岡位

長宗きん

新子

了

招り自由

うめ

ふし



十四

空疾り

降

うね

暑さう那

魏之



通稱中嶋宣藏富行 号花月庵三戸佐盛藩

通稱小田富之進字子常

号松川堂野田住盛藩

虎丁状

入所

御前
子

鬼剣



末のまの山少

涼

さや

袖子

はなれ

さくさく
の
ゆ

紫龍



通稱并屋彌右門

号踏松齋一戸住

通稱伊勢屋銀藏

号辰若合三戸住

出代戸

一里坊

道了堂

旅支度

泉美



下六

末の松山

浪乃

あま

瑞坊

孝嵐

松舟



通稱田中館彦右門廣政

号菅亭福岡住盛藩

通稱及川栄太郎鬼柳宿

田子ようや

あやや

四月の

あはれ

決文



ト
七

徳竹彦

きりのわらう

はあやう

きき

あやあ

あやあ

あやあ

あやあ

あやあ

花陰



通稱藤田源内字勝負

号雪山亭

通稱藤田又右門号無為庵

盛藩五戸住

菊

の

香

も

於
志
河
之

普
枝



校
川
小

五
の
一
の
一

夏
の

流
水

う
か

頂
水



通稱松尾十藏福宜号岐々舎三戸住

通稱松尾新右門喜治号一曉舎三戸住

羅文



解 掃の

小 家

喜 治

大 家

通稱種市和藏源義社号雪堂 盛藩三戸住

吹 雪

屋

記

あ

花 芒

互 扇



下 九

通稱高田忠太郎則治号桂山舎
浄法寺住盛法師

善之也

おの
あま

あま

岩子山
如水



下十



通稱
上総國夷隅郡樂町倉塚吉
當時在江戸飯倉雁木坂住
号屋福堂

塔

時

雨

顔

長

赤鴨
子

北笑



通稱廣屋源助深川一色町住号棟樹堂

軒
の

中

月
の

五月
晴

香山



十



奏

小
松

の

の

の

招
海



通稱田頭翠石門康雅号鶴亭末松山住

通稱小田代民藏号松蔭斎

花牧性

盛藩恒未

初東月

際子尔

山

山

龍山



山
里
志
淳
世

め
ろ
す
か

松
の

山

可
鏡



通稱金澤寅之助号花表舎五戸住

通稱田中館連司政景地水龍亭福岡住盛藩

本ころ流る

号字

中

敷の

中

駁水



十一

敷

号字

中

敷の

号字

中

文来



通稱伊勢屋武助号四方葎五戸住

通稱小田維綱

盛藩野田

急指

急

急

急

野田



下十三

砂

急

月

急

急

急



通稱阿部玄平忠徳号集義堂

福岡佐盛藩

盛岡三戸郡楳引

普門院源義

号月松園

七草

春深

了

育

謝春



日北新

拾子

去

梅

句

吐月



鬼柳都鳥十兵衛娘

雨の

白く

色

増し

かき

杜より

日村流の

お田女



江都星感堂又梅邑子編上

澤深也

北舞子

奇要の中

本外流片

ふりし

垢



夜

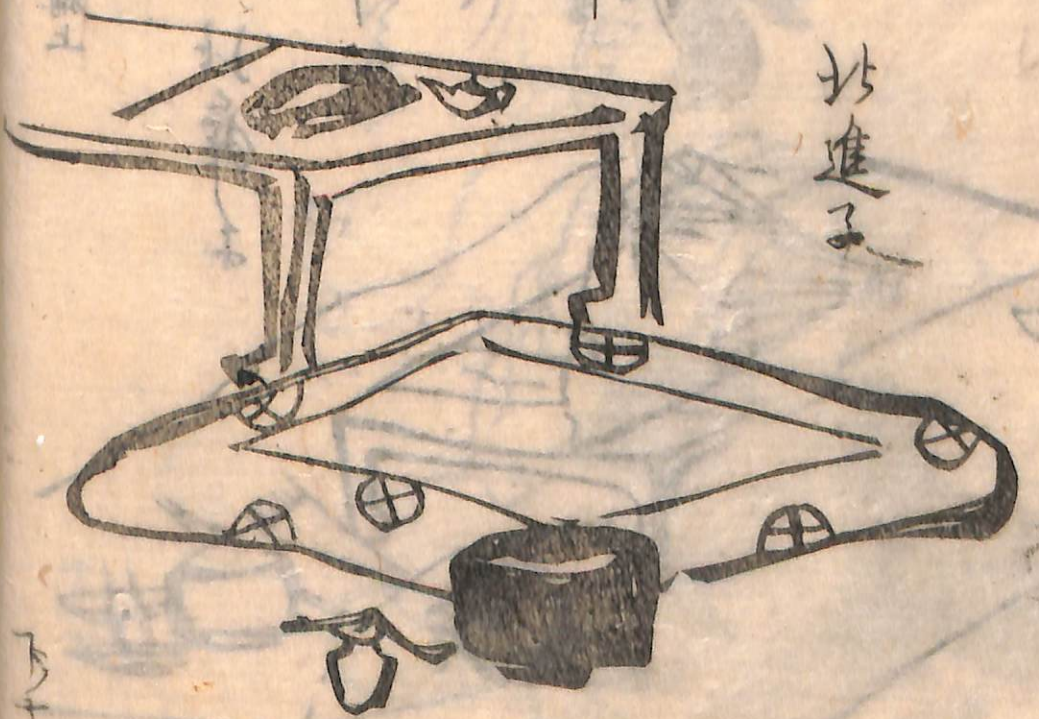
北進子

心持

叔位の

江都星位録

梅厨子、楯上



下十七

持厨子、楯上、子持

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄、草履、木屐、下駄

飯厨、膳、合、盆、盃、箸、匙、茶碗、湯碗、茶托、湯托、茶巾、湯巾、手拭、腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

四五、手、合、盆、盃、箸、匙、茶碗、湯碗、茶托、湯托、茶巾、湯巾、手拭、腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

下

子持、腰巾、帯、袴、履、足袋、草履、木屐、下駄

袴
子
九

腰
帯
九

假
厨
熾
席
下
九
賀
非

五
九
賀
非

四
五
子
九
賀
非

三
九
賀
非

船
九
賀
非

早
九
賀
非

幸
九
賀
非

杜
九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

九
賀
非

新... 志... 限... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩...

九 非 九 非 九 非 九 非 九 全 非 九 非 九 非

廿

洞... 志... 限... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩... 志... 成... 朝... 恩...

九 非 九 非 九 全 非 九 非 九 非 九 全 非 九 非

三

二

二

志ハ三世りりの由以 大款
 志あり以て昔も今も持て持
 支 濡月を味 嚼り ぐく
 天人の 塞して ぐく 杖を ぐり
 果れ ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 世間 余は 数 ぐく ぐく ぐく
 後 桐 筆 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 招 珠 殿 ぐり 杖 死 ぐく ぐく ぐく
 志の ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 大 幸 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 割 慕 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 司 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく

九 原 好 九 非 好 原 非 九 原 好 九 非 好 原 九 好

志月一人の志 ぐく ぐく ぐく ぐく
 莫 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 諸 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 自 鼻 毛 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 膏 素 不 五 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 序 代 有 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 志 實 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく

神祇之辨

一 化 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 外 志 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 多 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 初 志 志 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 宮 田 斜 ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく ぐく
 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志
 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

常 九 志 非 文 箭 中 架 桂 林 志 文

九 原 好 九 非 好 原 非 九 原 好 九 非 好 原 九 好

四五百人、所詮、
 能く、
 幸、
 相、

函懐之辭

山、
 現、

菅、
 林、
 雅、
 九、
 契、
 菅、
 林、
 雅、
 菅、

菅、
 林、
 雅、
 九、
 契、
 菅、

此、
 致、
 相、
 准、
 朝、
 不、
 邪、

菅、
 林、
 雅、
 九、
 契、
 菅、
 林、
 雅、
 九、
 契、
 菅、

神酒をよさし修心ふく臺
時化候今宵の月のそよぐ
庭下居別々中のまを張る
鴨子河の秋の宿のまをつら
大木福をわたるに禪寺
一白くつらまのあまのまを
梅のけらねぬまのまを

仙府より

實 櫻のそよぐ日か
故より一と一
納 庭先ふぬの湯を
新 雨のまを
月 明のまを
吾 かのまを
ウ 炭の香も名流ふ
自 ぬのまを

三 弟 三 弟 三 弟
江 九 三 三 三

常 九 一 九 常 九
止 芽 止 芽 止 芽 止

持 桜河のそよぐ日か
ふく 秋のそよぐ日か
常 盤木のそよぐ日か
いつ 雨のまを
常 庭先ふぬの湯を
小 木のまを
常 土のまを
下 戸のまを
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を

常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を
常 庭先ふぬの湯を

常 九 一 九 常 九
止 芽 止 芽 止 芽 止

一人位しつゝ是れ家作の
 此あるハ馬の種を古くは
 種しうかつゝ一尾のつゝ
 重くこれをも目つけの想し
 寺 百姓もいふも 川
 うつゝあんてきすり小半子
 出さしつゝ種を先種し
 田舎き、新めきつゝ尾衣根
 猫の眼をくす時身仕け
 明後もその時ちきり
 交を種せ 遠くは

端尾

墨霜庵のいふ
 ちくは種はあつゝも種はあつゝ
 百万石のつゝあつゝあつゝ

五肩馬子

紫頭

九 九 古 九 九 古 九 古 九 九

種は種をきりし目帯
 脚 種をきりし目帯
 種 種をきりし目帯
 つゝあつゝあつゝあつゝ
 定考のあつゝあつゝ
 策 策をきりし目帯
 遠い雪象ハ種をきりし目帯
 種 種をきりし目帯
 珍しつゝあつゝあつゝ
 日陰のつゝあつゝあつゝ
 種 種をきりし目帯
 三 三をきりし目帯
 穀 穀をきりし目帯
 種 種をきりし目帯
 井の元子屋のつゝあつゝ

北 北 北 北 北 北 北 北 北 北

岸居

九 九 九 九 九 九 九 九 九 九

磯石をむりぬるは方角

下れあきくまき角あひの味出

えりやせきたつくとまきうまき

常九行脚先

五十頁折

まはし江の片筋をたけを法りてハ戸 暹馬

磯くまき油みくまきくまき 常九

常九程氣を替しぬ新くられた、 窓兆

か役の智恵をくまきくまき 文蕭

余多きくまきくまきくまき 注林

くまきくまきくまきくまき 南江

別れくまきくまきくまきくまき 貫五

別れくまきくまきくまきくまき 三席

別れくまきくまきくまきくまき 南渡

別れくまきくまきくまきくまき 呂月

別れくまきくまきくまきくまき 白琴

別れくまきくまきくまきくまき 玉之

戸明是ハ一二寸ありき障りて

側てぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

障りぬりて障りの甚くむせく之

川

毒

北知

窓兆

文蕭

注林

南江

貫五

三席

南渡

呂月

白琴

玉之

南星

北嶽

一止

杉芽

心乃

木月

宗古

古推

松虎

玄南

悠主

渡再

備折

江上

英泉

清民

共翼

共翼

共翼

共翼

共翼

共翼

共翼

共翼

共翼

日の子守歌の終りよひのしづか

エト

白鳥

おし——美のそ塞きくく仁五門

時鶴子

路りくくのそくろまねを老女とくも

去留子

りし煙火のそら熱くくく西瓜屋

里石

屋のそをさるしゆもさくくくお田代女

惟則

車りゆふそをさるさくく十葉うめ

可鹿

短歌を引伸くくく二度出

前星

新きゆの海ひきくくくく六所環陀

芦吹子

浪をきもさくくく帆やま——米

二龍

ひんあやや霧のくくくくあゆも

白鳥子

涌や——霧をぬくくく中夏風

仙津

名軍ふ身を撃つくくくあつさくく

石孫

槍君の所はをさるくくく——櫻村

龜仙子

耳——をさるくくくくくくくく

櫻勝子

まはるや——あつあつ——体り——蒸気立

李氏

浪り——おの響初めくくくく馬路巾

五孝

我尾も返す本陣——お大時

月窓

後教をけし戸をくくくくくくく

笠而

爰草のまき——うめ——お出お終月

お重

遠山くくくあかぬきくくくく

白頭

平砂

沙羅

秋作

元吾

有母

野慈子

井砂子

江波

李谷

怡曆

渾児

貞君

虎 虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

虎の如く

時

神

井

山

志

自

将

原

坊

宗

老

一

章

班

父

貴

虎

洞

月

迹

雄

一

會

一

會

一

會

一

會

一

會

一

南部の玉川

雲の影の音して 志の情を去るなり
まんなん 娘ん 是をそ 侍んの玉川

葉さけけ 月夜をまろく 暮るるり

赤うれれ 髪を結く 巾ふらり ち

物ふらり 毛のしるし 月夜をうめ

箱蓋の種 竹のしるし 白肌を飛

風飛 小舟をまろく 暮るるり

車の影 脊中 吹れぬ 月夜をうめ

我笠と か 川 飯の 杖の 影

於の 巾 毛の しるし 暮るるり

燭火の 影 月夜をうめ

白と 巾 毛の しるし 暮るるり

新 衣の 影 月夜をうめ

一 衣の 影 月夜をうめ

二 衣の 影 月夜をうめ

全

貞徳

北堂

布三

風山

栲月女

大層

古晋

子行

如屋

月桂

年堂

耕趾

東江

善誓

山崎 本を 葉が なる 杖を まろく 暮るるり

おや ころも 人目の 園を 暮るるり

夕々 影 影の 影 影の 影

又 水 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

影 影の 影 影の 影

士朗

井眉

舟因

一至

停水

一甚

香望

双鸟

年付

自廣

志類

先成

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

灯りのあざむきし一石を掃き出、
 吹よせて木の葉をまき、
 終つて一ヶ月を以てて、
 名月世出さず、
 高き、
 流し、
 和東屋の吹平古橋の、
 白く、
 今さら、
 源一、
 輝と、
 くの、
 出用、

出車、
 沙龍、
 其翼、
 文舟、
 藤原、
 素文、
 流芝、
 秀外、
 水鏡、
 西后、
 若山、
 月座、
 若舟、
 其川、
 右邊、
 天巻

系人、
 和を、
 うけ、
 五、
 有、
 白、
 三、
 辨、
 生、
 風、
 比、
 百、
 主、

十、
 来、
 茶、
 石、
 香、
 丹、
 砂、
 互、
 子、
 一、
 保、

非や〜〜〜
 月亭
 貴之
 南度
 三泉
 松山
 漢堂
 和琴
 玉之
 成朗
 其友
 申溪
 松芽
 凌再
 在
 松野
 松野
 未月

月のかげに流るる萬葉の歌
 三友
 未山
 松野
 庄之
 英泉
 清氏
 本島
 和因
 抱俊
 友山
 孤月
 萱水
 和竹
 西馬
 廻脚
 山登

大鵬 香吟 硬堂 東里 市登
 栗形 田奇
 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 栗原の 枝色 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 投網 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 船 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原

大鵬 香吟 硬堂 東里 市登
 栗形 田奇
 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 栗原の 枝色 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 投網 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 船 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原
 佐倉 河内 宇治 栗原 大和 吾妻 佐倉 河内 宇治 栗原

去書中の事
居下三三多

此白書或は此のしに居候
三三三三三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三三三三三

又文音

去書中の事
居下三三多

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

去書中の事
居下三三多

又文音

山も此の節に陸之川も其れなり

ハク

文音

陸も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

船も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

其れなり

ハク

文音

惟も此の節に其れなり

ハク

文音

陸も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

下照

去書中の事
居下三三多

其れなり

ハク

文音

期も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

期も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

下照

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

陸も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

陸も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

其れなり

ハク

文音

惟も此の節に其れなり

ハク

文音

陸も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

下照

去書中の事
居下三三多

其れなり

ハク

文音

期も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

書かして世も居候ことありて其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

期も此の節に其れなり

ハク

文音

石切も此の節に其れなり

ハク

文音

磯も此の節に其れなり

ハク

文音

下照

騰の扇... 氣味... 梅... 山... 持... 別... 繁... 神... 風... 次... 身... 庭...

山 全 山 全 九 山 九 山 九 山 九 山 九 山 九

七十五

中十日... 美... 〇

山 全

二十四孝辨

去来録

耕 平 禽 類... 孝 行

車 月 日 長 果 不 た わ り れ 〇

再 後... 〇

尾... 〇

〇

〇

〇

〇

宛 九 山 九 山 九 山 九 山 九 山 九 山 九

幸へを 贈るに 巡りて 幸へを 了る 依保 撰本
 おしほし 狗へ 志し 呪ふ
 美 踊る 氷へ 碎けり 爲日 秋
 茶 くのしも ちん 牛 米
 坂 端の 糖を すすり 余乞ひ
 むき 歩 履も くる すすり せ
 非 明も 若し 暮を 近 出り
 路 仕 際 作し 木 俵
 雪 織り 阪 あり 雪 山
 おきり 任 あり 雪 山
 美 の 月 あり 雪 山
 出り 雪 山 雪 山

九 雅 著 九 雅 著
 九 雅 著 九 雅 著

二十〇
 雪 上 様 の 下 籠 等
 雪 上 様 の 下 籠 等
 雪 上 様 の 下 籠 等

雪 上
 雪 上
 雪 上

集帖の

雪 上 様 の
 雪 上 様 の

願 心 堂 集 帖

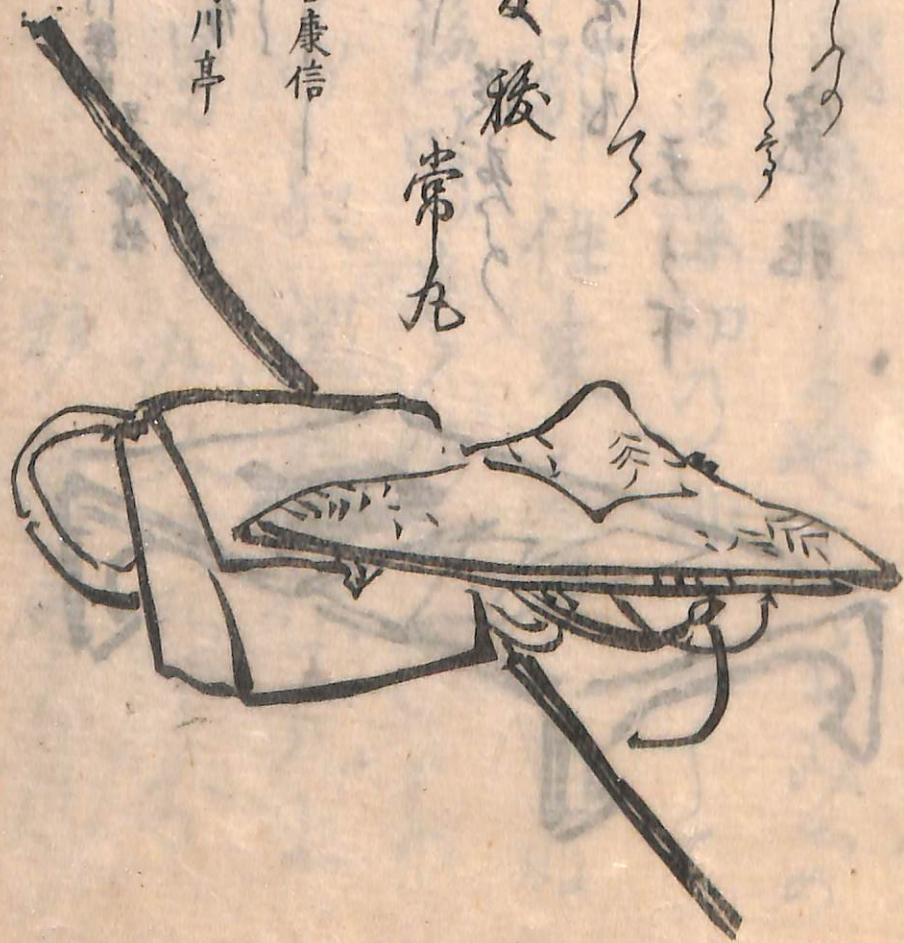
漸 次 々 々 々 後

常 九

昔 時 松 橋 長 六 又 金 吾 康 信

解 冠 下 ナリ

号 壽 川 亭



法先寺定石釋門學園

号三峰館

去刀を鞘よりハ勿傷
下は尾も傷かへり
昔の所代り目也

法降

帳表

千

天々下

寤兆



トノ末

世をみの場をすきしるも求む程の合
一處お志成後とのやけふみあ
おくあふ三峰由を深切の能士あて
そののさう都郡任来ふ後を思ぬ
己受の将去後吟きり後めいしあ
なうか、業うあに微蓋積て凡上
ま強くきりの其男常丸又中たう分
くこのきこの是と其炉冬ぬあは

是亦其外之者 里農心多感泣を
懐く汗一東府に昇りしにあり
のきく 汝の心も 心互携り白くする
は古々一報といふを

嘉永辛夷書



早稲田大学蔵



